

家族は、様々な経験を積み重ね、共有化しながら歴史を創造し、家族固有の価値観や信念を形成している。家族の多様化、複雑化が指摘される現在、家族看護において家族固有の体験や価値観等をよりよく理解し、ケアに生かしていくことが重要となっている。家族の主観的な体験や価値観を理解し、新たな知識の創造を可能にするものが質的研究である。

## 1. 家族看護研究における質的研究の優位性

1) 家族固有の体験や価値観などの現象を理解するための新たな枠組みを見だし、根拠をもった実践知を発展させることが可能となる

看護者は、実践での家族ケアを通して様々な家族の体験や価値観の理解を深め、実践知として蓄積している。実践知をさらに根拠をもった知に発展させていくためには、これまでに蓄積されている家族理論や看護理論を基盤とした理論知を統合していくことが必要である。しかし、実践の場で起こる家族現象の中には、それらを理解するための適切な枠組みや理論が見つからないことも多い。質的研究を積み重ねることで、現象に対する一般的法則や枠組みを見出し、理論化していくことが可能となり、それを基にして根拠をもった実践知の発展、豊かな看護ケアの展開が可能になると考える。

2) 実践の場において個人の印象で終わりがちであった現象の理解を根拠のある実践知としてまとめ、蓄積し、共有化していくことが可能となる

実践の場での家族との関わりを通して得られる、個人の印象として終わりがちで、言葉にならない家族の主観的体験の理解を、質的研究によって、一般化可能な他者にも理解できる形に概念化し、まとめることができる。さらに一つの根拠をもった実践知として蓄積し、共有化していくことが可能になると考える。

## 2. 家族看護研究における質的研究の困難さ

### 1) 家族全体を捉えることの限界

家族看護では、家族成員という個人レベル、家族内の二者関係レベル、家族システム全体レベルという3つの視点から捉えている。質的研究において、複数の家族員や家族システム全体を焦点化していくことは困難であるため家族現象の何かに焦点を絞らなければならない。焦点化した場合、家族全体を捉えるという点からみての妥当性の限界も考えられ、研究者としてこれらの研究の限界を捉えておく必要がある。

### 2) 倫理的な課題

家族看護研究において、対象者が語ってくれた内容が他の家族員や家族ダイナミズムにどのような影響を及ぼすのかを考慮し、倫理的配慮を行っていかなければならない。互いに影響し合う家族を対象とするなかで、対象者にどのように同意を得、プライバシーを守っていくか、結果をどのように提示するか等、研究者としてこれらの倫理的課題を熟考したうえで、質的研究を発展させていくことが必要である。

今回は、以上のような家族看護研究における質的研究の優位性、困難さをふまえながら、研究を支える一つの柱であるデータ分析について検討し、参加者の皆様と家族看護研究における質的研究について共有し、探求していきたいと考える。